

# 分科会 D

農業と食分野での技術革新の可能性、暮らし方革命

- ◆はじめに・・・
- ◆自己紹介（8分）：  
今、経歴、研究、立場表明
- ◆課題の認識（8分）：  
『ワーク・シフト』の「未来をつくる要因5つ」
- ◆「農×IT」の整理（8分）：  
つくる・はこぶ・たべる×つながる・ラクする
- ◆問い

はじめに・・・

**「問題を抱える」**

のではなく、

**「課題を掲げる」**

# 自己紹介

奥山直輝（ブリッジライターNAO）

◇主にウェブ媒体のライター

- ・『インターネットと農業』
- ・『1分で読書』

◇エンドファイト（植物共生菌）の研究 / 開発に関わる  
@前川総合研究所

# 経歴

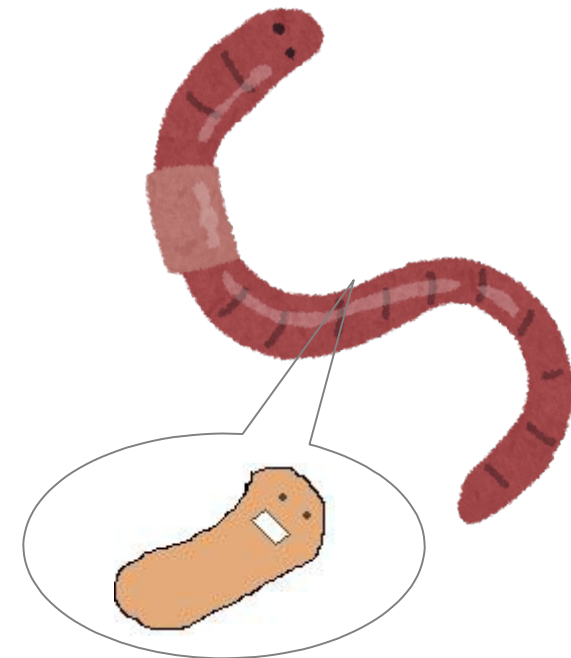
## *Oisix.daichi*

◆大地を守る会（現・オイシックスドット大地）  
で青果物などの流通に携わる

→ここ10年ほどのオーガニック市場の動向

◆大学院でミミズの腸内細菌の研究

→約10年前の最前線の研究



# 研究

- リン資源枯渇の危機、輸入依存
- 日本の火山灰土壌にはリンが吸着する！
- ミミズの腸内細菌の研究
- キューバが有機農業大国であることを知る
- 土壌肥料学会での感想
- 日本ではこの分野の研究が進めにくいのでは・・・

## 立場表明（今考えていること）

「自然栽培」「有機農法」など  
特定の農法にはこだわらないが、

”循環”、”持続性”を重視した  
農業と食のあり方（生活・社会）  
へ推進したい！

その「手段のひとつ」として、  
ITは有望なのではないか？

# 課題の認識

『ワーク・シフト』（リンダ・グラットン著）の  
「未来を形づくる5つの要因」に沿って

- テクノロジーの進化
- グローバル化（vsローカル化）
- 長寿化・少子化
- 社会の変化
- エネルギー・環境問題の深刻化



「問題を抱える」

のではなく、

「課題を掲げる」



## 課題の認識（例）

- テクノロジーの進化  
→今までできなかったことが可能になった！
- グローバル化（vsローカル化）  
→食糧自給率、TPP、輸出、地産地消
- 長寿化・少子化  
→高齢化、後継者不足
- 社会の変化  
→人々の求めることの変化
- エネルギー・環境問題の深刻化  
→肥料資源の枯渇、石油依存

# 「農 × IT」の整理

【農】 つくる・はこぶ・たべる

×

【IT】 つながる・ラクする

これを踏まえて考えると  
頭の中がこんがらがりにくい（・・・かも？）

## 「農 × IT」の整理

つくる：生産現場、食品加工など

はこぶ：流通・鮮度保持など

たべる：販売・消費（調理）など

（+その他）

# 「農 × IT」の整理

**つながる**：通信速度・品質の向上  
→人間同士のつながり（双方向性）

**ラクする**：自動化・ロボット・AI  
→人間が不要に？

(+その他)

## 問い

昔ながらの知恵を活かした農業と急速に発達する情報技術は、

決して対立するものではなく向かう方向は同じだと考えています。

**環境と調和した持続可能**な農と食の実現に、ITをどのように活用できるでしょうか？